

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

事業所番号	4170700175		
法人名	医療法人 天心堂 志田病院		
事業所名	グループホーム さくら荘		
所在地	佐賀県鹿島市大字中村2191-2		
自己評価作成日	平成21年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年11月26日	外部評価確定日	平成22年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニツトA・B	理念にもあるように、利用者様とのふれあいを大切に、生きる喜びをき共有し、常に笑顔で、安らぎのある生活が送れるように支援している。今回も家族会の内容を充実させ、家族様との関わりを深めることに重点をおいて取り組みました。その結果、面会やいろいろな行事などの参加も増え、家族様との親密度が増し、信頼関係が築けてきているように思います。利用者様を、家族様と職員で一緒になり支えあう雰囲気作りに努めています。又地域密着型ということで、地域の方との交流にも力をいれ、避難訓練など地域の方の協力を得て実施しています。今後も地域の方とのかかわりを重視していきたいとおもっています。職員は個々のスキルアップのために、いろいろな研修に参加したり、資格取得のための努力をしています。
---------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

地域とのふれあいや連携を大切にし、地域に融け込み、交流を深めているグループホームである。職員が地域の溝掃除に参加したり、利用者と一緒に近くの道路や広場のごみ拾いをする事もある。また、地域の運動会にも楽しく参加している。近くの店での買い物や食事に出かけたり、近所の知り合いの自宅を訪れる等、外出の機会も多い。利用者の尊厳を尊重し、あくまでも利用者主体の支援をおこなっており、利用者の表情もやわらかく、穏やかである。お互いに支えあい、教えあい、学びあいながらの日頃の支援である。家族会も組織され、本人や家族の思いが運営にも活かされている。職員の資質向上のための研修も積極的に実施されている。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価(ユニットA)	自己評価(ユニットB)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、基本方針と連動した、さくら荘独自の運営理念をつくり、毎朝朝礼時に唱和し、その実現に日々精進している。	笑顔とやすらぎのある生活を送れるように支援する事を理念とし、地域に根ざしたホームを創り出すことを目指している。理念を毎朝唱和することによって、管理者と職員の理念実現のための一体感が生まれ、日々の実践に繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の一員として回覧板を回していただき、いろいろな行事に参加したり、回覧板に法人の行事のおしらせを載せ参加を呼びかけている。	自治会に加入し、回覧板等で地域の情報を把握している。地域の溝掃除には職員が参加している。入居者は地域の運動会に参加したり、公民館のプランターに水をかけたり、ゴミ拾い等の活動を通して地域との交流が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の健康教室の開催の中で認知症についての教室を2月に予定している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、生活状況や行事などをスライドで紹介している。又意見を聞いたりお願い事をしたりしている。	二か月毎に会議が開催され、利用実績報告・日常生活・レクリエーション活動の様子が紹介されている。その後、各委員から意見等を出してもらっている。自治会加入や避難訓練に近隣住民の参加実現等は協議の成果の一つである。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事などの案内文を送付している。	運営推進会議での連携だけでなく、福祉担当課へ出向く機会を利用して利用者の暮らしぶりを伝えたり、情報をもらったりしている。また、行事等に出席してもらい、ホームの具体的な様子を理解してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の実施を行い、身体拘束をしないケアに努めている。危険性がある場合は全職員や法人の職員にアドバイスなどを受けて対応策を考えている。法人内に身体拘束廃止委員会あり、毎月検討会行なっている。	勉強会や身体拘束禁止委員会で学習を重ねている。具体的な言葉かけの事例等を通して、スピーチロックや精神的な抑圧もないように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、日々注意を払っていくよう声かけしている。			

自己	外部	項 目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行う。現在活用されるような対象者はいっしやらない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書で十分に説明し、納得した上で捺印して頂いている。その際希望を聞き、ケアプランに反映している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の定期的なアンケートを実施し質問や改善点を含め、結果を公表している。家族会の開催時に意見を聞くよう努めている。		従来実施していたアンケートに加え、家族会を組織し、より多くの意見等を収集している。また、声なき声に常に気を配っている。面会時にも職員と話し易い雰囲気づくりを心掛けている。運営に関する意見は公表し、質の高いサービスの確保を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の定期的な職員アンケートの実施を行い、そこで意見をだしてもらい反映している。年2回の個人面接を行なっている。		毎日の朝会や定期的な会議の機会だけでなく、職員へのアンケートや個人面談等で、出来るだけ職員の意見や提案の機会を多くし、その把握に努めている。理念の実現の為に働きやすい職場づくりに努めており、それが良きケアにも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回実施し、スキル評価を行なっている。又勤務表作成時、希望休みを聞いて、働きやすい環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会が中心となり、法人内外の研修の推進をしている。今年度法人内で救命救急(BLS)の講習会を開催し、費用の一部負担もしていただいた。さくら荘では7名取得した。法人外の研修にもよく参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿島・塩田地区のグループホーム交流会を立ち上げ、情報交換を行なっている。今後勉強会の開催や入居者・職員間の交流会の開催を予定している。			

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、面会に行き、本人様や家族様と話をし、要望などを聞くようにしている。不安があらわれる場合には、施設見学をして頂いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当のケアマネージャーより、色々な情報を頂き、職員と家族様の関係作りに配慮している。困っている事、不安な事、要望などを聞きだし気持ちを共有するようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリの希望がある場合など医師やPTに相談しリハビリ訓練を実施している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りを一緒に行うことで、主婦の先輩として、いろいろな助言をして頂いている。又畑作業の助言もして頂いている。洗濯物たたみや食器ふきなど家事一般を一緒に行なっている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を立ち上げた事で、職員と家族様の関係が親密になり、家族様の思いなどを知る事ができ、入居者様と家族様の関係を途切れさせることなく、いい関係が築けてきた。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	地域行事や希望場所への外出など、要望を聞き、できる限り送迎し関係が途切れないうに支援している。		近くの店に出かけたり、近所の知り合いの方に会って話を交わしている。希望をきいて外出したり、外食をすることもある。これまでに市民図書館に出かけて好きな図書を借りてくる事例もあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の中でも気が合う、合わないがある為、よく把握し、うまく関わったり、支えあったりできるよう援助している。反対に気が合わない方同士は距離を置くようにし、トラブルにならないよう職員が間に入る			

自己	外部	項 目	自己評価(ユニットA)	自己評価(ユニットB)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が理由で退去された場合は面会に行ったり、当院入院の場合、引き続き洗濯物などの管理をしている。退所後になくなられた場合は葬儀に出席している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話の中で思いを引き出し、ケアプランに反映している。困難な場合は、家族様や親類の方からの思いを聞き反映している。		日々の関わりの中で利用者の言葉や、つぶやき、表情、行動、また、入居時の諸情報等から本人の思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、生活歴などを事前面接記録を活用し把握に努めている。又、担当ケアマネージャーに情報を詳しく聞き、家族関係などの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常一緒に過ごす事で、個々の状態把握に努め、職員間で情報共有し、その都度伝達事項に記入し知らせたり、月1度のケースカンファレンスで報告している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1回・職員・医師などが参加し、ケアプラン検討会を実施している。家族様にも声かけしているがなかなか参加して頂けない、その場合は事前に要望を聞くようにしている。		本人本位の実行可能な計画がたてられている。計画作成には関係者全員が参画し、その内容を承知している。計画の見直しは6か月毎を基本にしているが、実情に応じて随時見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・日々の個人記録、ケアプランの実施状況、ケアプランに対しての介護経過を記録し、モニタリングして、ケアプランの見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中の洗濯物の管理。散髪の出張サービスの受け入れ。眼科受診や他病院にての検査の付き添いなど行なっている。銀行との連携による支払いだしの援助も行なっている。			

自己	外部	項 目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに積極的に参加するように心がけている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に当院のかかりつけでない方には、今までのかかりつけでも良いと説明するも、全ての方が病院と併設なのが安心との理由で入居希望したと話され、かかりつけを当院にされている。		本人や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。現在は全員が希望する併設病院での受診である。歯科医は協力医療機関の訪問診察と治療が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人外来看護師が定期的に来て頂いたり、日々些細な事も報告し、状態把握をしている為、緊急時の対応がすばやくできている。夜間帯は病棟看護師に連絡し対応して頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は当院では毎日、他病院では2、3日おきに面会に行き、状態を聞き現状把握に努め、記録に残している。又家族様の負担がかからないように洗濯物はこちらで預かり行なっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方の指針を作成し、同意書に捺印して頂いている。終末期のはっきりとした確認までは至っていないが、その時に家族様医師・職員と話し合いを行なっている。今の所、病院での終末期が多い。		入居時に指針を説明し、納得のいく話し合いをもち、同意を得ている。また、重度化した場合もその都度、本人や家族の意向を確認しながら支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の仕方やAEDの勉強会に参加。BLSの資格を取得したりして実践力を身につける努力をしている。事故発生時のHPへの連絡マニュアルも作成し対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施し、近所の方にも参加して頂いている。近所の方への連絡方法も併設施設であるくすの木職員にして頂くようにマニュアル化している。		夜間時の災害発生も想定しての避難訓練を実施している。地元消防団や近隣住民の協力もある。近隣住民には、避難場所への誘導等の協力を得ている。	災害対策は、家族の不安にもつながりやすい部分であり、家族等の安心を高めるためにも引き続き充実した対策を期待したい。また家族等の参加見学による避難訓練は家族の安心にもつながるものと期待される。

自己	外部	項 目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会をサービス向上委員会が実施している。朝礼時などにも、言葉使いが気になるときには注意するようにしている。	利用者一人ひとりの尊厳を大切にしている。利用者の心を大切にし、さりげない介護や誘導を心がけている。馴れ合いによる言葉かけ等がないように、管理者による職員への指導も徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴介助時や居室にいらっしゃる時など、1対1で話をする際に思いなどをゆっくり聞く様心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出の希望や入浴などの希望があった場合は業務を調整して希望を聞くよう努力している。どうしてもできない時は日を改めて対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は本人が別の所でしたいと希望があれば、送迎している。行事があるときには希望に応じて薄化粧をして頂くよう援助している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、午前中は職の食事作りのお手伝いをして頂いている。又食器拭きや台拭きなどのお手伝いもして頂いている。日曜日の昼食は希望食として好みのメニューにしている。職員も同じメニューと一緒に頂いている。	職員も利用者と一緒にの食事である。体調に合わせた減塩食や調理方法を工夫している。希望による献立も取り入れ喜ばれている。野菜の下ごしらえや食器拭き等を職員と一緒にしている利用者もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は1日1000cc以上を目標に提供し、毎食食事の摂取量を把握し、摂取量が少ない時は、管理栄養士に相談し、対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。口腔内に問題がある方は、歯科の医師に見ていただき、口腔ケアの仕方の指導を受けて実施している。なるだけ、自力で口腔ケアしていただくように、準備などの援助を行い、出来ない方に関しては介助している。			

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを知り、誘導している。日中はなるべくオムツの使用を減らし、布パンツを使用している。		排泄パターンや習慣を把握し、さりげない誘導を行っている。日中はおむつの使用が無く、布パンツを使用している。失敗があっても、不安を取り除き、さりげない支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前・起床時にコップ1杯の冷たい水を飲んで頂くように努めている。便秘がひどい方には寝の前にも、コップ1杯の水を飲んで頂いている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴実施している。なるべく週3回以上入って頂くようにしている。拒否などがある場合、時間帯をずらしたりして、入りたいときに入って頂くよう柔軟な対応が可能。たまには夜間入浴も実施している。		毎日入浴が出来る様に準備が整えられている。一人ひとりの希望に合わせて入浴の支援が行われている。職員の勤務体制を工夫して、月に4回程の夜間入浴も実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	タイムスケジュール等は設けず、一人ひとりの生活習慣や日々の状況に合わせて、臨機応変に支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際、薬の説明書を毎回頂き、ケース記録に綴じてすぐに確認できるようにしている。臨時に追加された薬に関しては、申し送りを確実にを行い副作用についても伝達している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中には食事作りのお手伝いをさせていただいたり、畑仕事が好きな方には一緒に畑仕事をさせていただき、アドバイスなどを頂いている。裁縫が上手な方には簡単な縫い物をして頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外食の希望があるときは、日程を調整し行くようにしている。近所のケーキ屋さんに行ったり、ファミリーレストランにかき氷やケーキを食べに行ったりなどしている。		日頃から希望に応じた支援をしている。気候がよい時は、散歩の機会も多い。また、スーパーへ買い物に行ったり、近くの知り合いの自宅や店に出かける方もある。ドライブは希望によって行き先を決めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したいと希望がある方に関しては、家族様と相談のうえ持って頂いている。			

自己	外部	項 目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の返事が書けない方には、直接電話をかけ話をして頂いている。又希望時にはこちらから電話をかけて話していただいている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感のある花や置物などを置いている。環境が不快だという苦情はない。		ベランダには利用者が皮をむいた干し柿がつるされ、季節の花と共に季節を感じることができる。居間は明るく、畳の所には炬燵が置かれている。テレビも利用者が視聴する時以外は電源を切っている。室温や湿度も適切に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外を眺めながら会話できるようにソファを置いたり、畳のところに横になれるように枕や毛布などをおいている。冬にはコタツも設置している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた道具やTV、仏壇など持って来ていただいている。		各居室とも馴染みの物や希望する家具等が置かれ、その人らしい居室になっている。鏡、仏壇、テレビ、家族の写真、本、椅子、季節の服、その他色々な物がみられる。本人の状況や希望によって、畳を使用している方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、又あらゆるところに手すりを設置している。転倒の危険性がある方に関しては、センサーマットや衝撃吸収マットなどを使用し安全性に十分配慮している。			

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）

※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA ユニットB		
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA ユニットB		
		↓該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
		○	○	3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない